新田小学校・新田中学校の小中連携教育

１　目的

⑴ 中１ギャップの解消

小学校から中学校への進学に伴う，不登校等の生徒指導上の諸問題が発生する事態等の解消。

⑵ 少子化による人間関係の固定化の解消

少子化の進行により児童生徒の人間関係が固定化しやすい中，小学生が中学生の豊かな思考力や主体的な行動力を手本とし，自らも信頼されるリーダーとして，自己実現していこうとする意欲を高めていく。

⑶ 教職員の資質向上

新田小・中学校教職員が義務教育９年間の教育活動を理解した上で，教育活動全般において自分の果たすべき役割をしっかりと認識することで，９年間の系統性・連続性を確保し，義務教育の目的，目標に掲げる資質や能力，態度等を育成できるようにする。

２　教育課程

⑴ 学習指導要領に基づく９年間の連続した教育課程の編成

新田小･中学校は，学習指導要領に基づいた教育課程を編成する中で，中学校教員による乗り入れ授業や，学校行事として，スマイルコンサート，総合防災訓練，小中合同遠足を実施し，また，業前の縦割り活動を定期的に実施する。入学式，卒業式等の儀式的行事は，小・中それぞれの校種で行う。

以下のものについては，新田小・中学校合同で作成し，運用を図る。

① 校内研究計画，情報リテラシーの育成，新田小・中スタンダードの定着，効果的な ICT の活用
② 志教育全体計画，総合的な学習の時間計画，キャリア教育全体計画
③ ９年間を見通した体力作りの計画，陸上大会・駅伝大会の練習計画

⑵ 前期・中期・後期の区分による指導

義務教育９年間を前期４年（小１～４年），中期３年（小５～中１年），後期２年（中２，３年）に区分し，それぞれの区分での発達段階を重視し，指導内容を明確にして取り組む。特に，学習充実期である中期３年を教職員が意識し，スムーズに中学校生活に移行できるよう指導する。

<table>
<tr><td>校種</td><td colspan="6">小学校</td><td colspan="3">中学校</td></tr>
<tr><td>学年</td><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>５年</td><td>６年</td><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td></tr>
<tr><td>区分</td><td colspan="4">学習基礎定着期</td><td colspan="2">学習充実期</td><td colspan="3">学習発展期</td></tr>
<tr><td>重点指導事項</td><td colspan="4">○体験的な理解や繰り返し学習を重視するなど，発達の段階に応じて徹底して基礎的･基本的な知識･技能を習得させ，学習の基盤を構築する。
○学習習慣の確立を図る。</td><td colspan="2">○習得した基礎的・基本的内容を確実に定着させるとともに，それらを活用して，論理的思考力の育成を図る。
○児童・生徒の交流や小中教職員の相互乗り入れ授業により，小学生の中学校の学習へのスムーズな移行を図る。</td><td colspan="3">○自ら学習に取り組む姿勢を重視するとともに，習得した基礎的・基本的内容を応用したり、身に付けた能力を活用したりして，個性の伸長を図る。</td></tr>
<tr><td>指導体制</td><td colspan="4">学級担任制</td><td colspan="2">一部教科担任制</td><td colspan="3">教科担任制</td></tr>
<tr><td>小中教員の乗り入れ授業の視点</td><td colspan="9"><u>○単学級である中学校の免外解消と小学校高学年の一部教科担任制の充実の為に実施する。</u>
＊担任の力量や教職員数を踏まえ，総合的に判断して，乗り入れ授業を無理なく実施する。
<u>●中学校教員の専門性を生かす為に</u>
・家庭，音楽</td></tr>
</table>